

2026年5月24日

## 主日礼拝

礼拝讃美歌⇒40番 (KH 姉)

『主イエスはわがため』

聖書⇒ヨハネの黙示録4章8~11節 (MM 姉)

『この四つの生き物には、それぞれ六つの翼があり、その周りにも内側にも、一面に目があった。彼らは、昼も夜も絶え間なく言い続けた。

「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、/  
全能者である神、主、/

かつておられ、今おられ、やがて来られる方。」

玉座に座っておられ、世々限りなく生きておられる方に、これらの生き物が、栄光と誉れをたたえて感謝をささげると、二十四人の長老は、玉座に着いておられる方の前にひれ伏して、世々限りなく生きておられる方を礼拝し、自分たちの冠を玉座の前に投げ出して言った。

「主よ、わたしたちの神よ、/  
あなたこそ、/

栄光と誉れと力とを受けけるにふさわしい方。

あなたは万物を造られ、/  
御心によって万物は存在し、/  
また創造されたからです。』

(祈り)

礼拝讃美歌⇒23番

『聖なる聖なる聖なるかな』

聖書⇒ルカによる福音書8章9~14節 (KT 姉)

『弟子たちは、このたとえはどんな意味かと尋ねた。イエスは言われた。「あなたがたには神の国の秘密を悟ることが許されているが、他の人々にはたとえを用いて話すのだ。それは、/

『彼らが見ても見えず、/  
聞いても理解できない』/

ようになるためである。」

「このたとえの意味はこうである。種は神の言葉である。道端のものとは、御言葉を聞くが、信じて救われる

ことのないように、後から悪魔が来て、その心から御言葉を奪い去る人たちである。石地のものとは、御言葉を聞くと喜んで受け入れるが、根がないので、しばらくは信じて、試練に遭うと身を引いてしまう人たちのことである。そして、茨の中に落ちたのは、御言葉を聞くが、途中で人生の思い煩いや富や快樂に覆いふさがれて、実が熟するまでに至らない人たちである。』

聖書⇒ヘブライ人への手紙 5 章 2 節

『大祭司は、自分自身も弱さを身にまとっているの、無知な人、迷っている人を思いやることができます。』

聖書⇒ヘブライ人への手紙 4 章 14~16 節

『さて、わたしたちには、もろもろの天を通過された偉大な大祭司、神の子イエスが与えられているのですから、わたしたちの公に言い表している信仰をしっかりと保とうではありませんか。この大祭司は、わたしたちの弱さに同情できない方ではなく、罪を犯されなかったが、あらゆる点において、わたしたちと同様に試練に遭われたのです。だから、憐れみを受け、恵みにあずかって、時宜にかなった助けをいただくために、大胆に恵みの座に近づこうではありませんか。』

(祈り)

礼拝讃美歌⇒241 番 (KH 兄)

『主の御稜威と』

《パン裂き》

聖書⇒マタイによる福音書 26 章 26~30 節 (KH 兄)

『一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えながら言われた。「取って食べなさい。これはわたしの体である。」また、杯を取り、感謝の祈りを唱え、彼らに渡して言われた。「皆、この杯から飲みなさい。これは、罪が赦されるように、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。言っておくが、わたしの父の国であなたがたと共に新たに飲むその日まで、今後ぶどうの実から作ったものを飲むことは決してあるまい。」一同は賛美の歌をうたってから、オリーブ山へ出かけた。』

(式)

礼拝讃美歌⇒148番

『主のみ旨により』

## 《建徳》

聖書⇒ヨハネによる福音書 3章 16節 (ES 姉)

『神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。  
独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。』

聖書⇒ヨハネの手紙一 5章 11節

『その証しとは、神が永遠の命をわたしたちに与えられたこと、  
そして、この命が御子の内にあるということです。』

聖書⇒ヨハネの手紙一 5章 18節

『わたしたちは知っています。すべて神から生まれた者は罪を犯しません。』

聖書⇒ガラテヤの信徒への手紙 5章 1節

『この自由を得させるために、キリストはわたしたちを自由の身にしてくださったのです。  
だから、しっかりしなさい。奴隷の軛に二度とつながれてはなりません。』

聖書⇒ハネの手紙一 5章 1節

『イエスがメシアであると信じる人は皆、神から生まれた者です。  
そして、生んでくださった方を愛する人は皆、その方から生まれた者をも愛します。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 1章 1~5節 (KH 兄)

『初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。

この言は、初めに神と共にあった。

万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。

言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。

光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。』

礼拝讃美歌⇒128番 (KH 兄)

『栄えの主イエスの』

《建徳要旨》